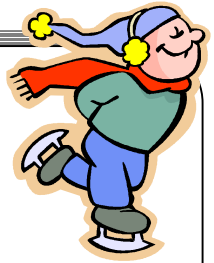


がくどうほいく ふなばし



2005年度 第9号 市連協だより 2006年2月24日発行

船橋市学童保育連絡協議会 事務所 船橋市南本町31-5 047-433-9266

<http://homepage2.nifty.com/fghrk/>

4ルームの増改築実現へ！

～ 船橋市来年度予算案 ～

船橋市の来年度予算案によると、来年度に湊町、峰台、高郷、古和釜第2の4ヶ所の増改築が提案されました。合計では、145名の定員増になります。父母会の強い要望に応えたものといえます。予算確保のために尽力された担当課（児童育成課）に感謝します。今後、該当ルームの増改築工事实施にあたって、担当課と父母会との折衝をしていきたいと思います。

しかし、全体的には、まだ依然として、入所を希望しても入れず、空きを待ち、待機している子どもたちが多数います。入所不許可の文書が送付されてきて、がっかりされている方もいると思います。2～3年生で不許可のルームもあります。新1年生にまだ通知がないという不安もあります。

来年度の入所問題についても、市連協の定例会で話し合っていきたいと思いますので、毎月の定例会にご参加ください。（毎月第4金曜日19：45～女性センターにて）

増設される放課後ルーム	現定員	整備後定員（増）
湊町	40人	80人（+40）
峰台	55人	90人（+35）
高郷	40人	60人（+20）
古和釜第2	40人	90人（+50）

予算額は合計5900万円（うち国県からの補助は1080万円）



安全対策で、非常通報システムを導入

不審者の侵入などの安全対策として、各ルームに非常通報システムを設置し、直接警備会社に通報できるようになります。これも来年度予算案に盛り込まれました。

（予算額は135万円）

分けると良いことがあるのです。

大規模ルームでの運営の工夫

塚田放課後ルームは平成16年夏の増設を経て、17年度は109名でスタートしました。

指導員の役割分担や生活作りを工夫して運営をおこないましたが、夏休みを過ぎても子どもの生活はなかなか落ち着きませんでした。現状の「延長線」では解決をしないとということで、分割運営を試行的におこなうことにしました(昨年11月から)。

施設としては、真ん中をパーティションで仕切り、増設部分を第2ルームとして確保。トイレ、ロッカー、タオル掛け、手洗い場、出入り口など台所以外は生活するための条件がそろっていたことが幸いでした(写真参照。おやつの準備などのために、仕切りは一方所だけ通過できるようにした)。

子どもの振り分けは「試行」ということで、学年比などを考慮しただけで機械的に振り分けました。

生活の流れは、2ルームとも同じ流れにしました(おやつ時間は3時半から、その後5時まで外遊び)。二つのルーム間の子どもの行き来は原則禁止。「ルーム2」の子どもたちは、施設脇を通過して移動します(夕方5時以降、土曜日は児童数が減るので「ルーム1」に合流して生活)。指導員の配置は、2ルーム分の職員数がないこと、また、「試行」ということで両方の様子が共通して理解できるようにローテーションを組みました。



増築後、大きくなった部屋を仕切りで区切る工夫

分離運営して、「子どもがより見えてくる」ことが一番の成果です。ケンカが起こった場合、その経過がよりわかるようになりました。また、いろいろな行動がよりスムーズにできるようになったこと、児童の出席の確認作業が軽減されて、子どもと関われる余裕ができたことなどなど、いろいろなメリットを確かめることができました。

アンケートをとって、子どもたちの感想を聞いたところ、「仲の良い友だちと別れた」(外遊びでは一緒に過ごせるですが...)という不満をあげる子が多くいました。年度途中11月からの実施ということで、その思いは予想できます。

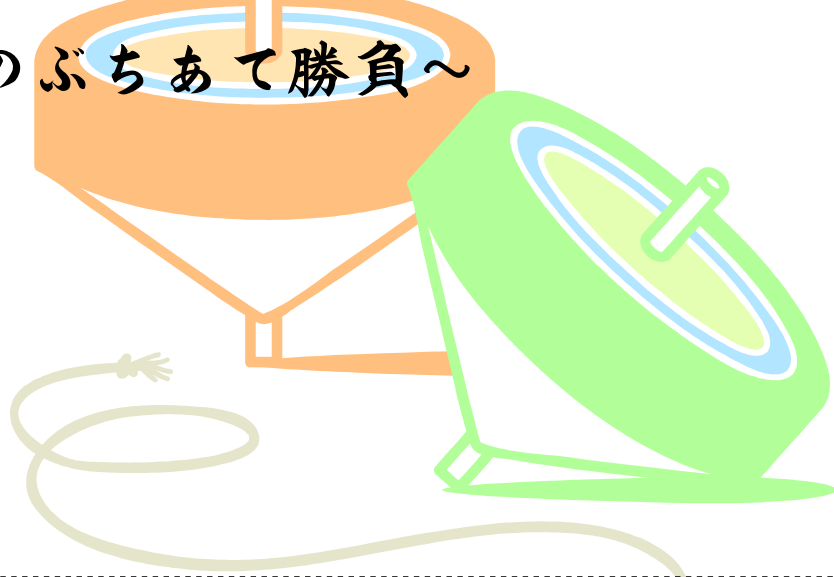
その一方で、「新しい友だちができた」「静かになった」「おやつの準備が早くできるようになった」などとメリットをあげる意見もありました。

予想を超える成果があり、当初1ヶ月間の予定を年度末まで延長し、さらに次年度もこの方向でできるよう検討をすすめています。(文責 小松崎)

ほのぼの保育報告

ぶつかってもまたすぐに。～

こまのぶちあて勝負～



冬になると子どもたちの間で広がるのが、こまあそび。ほかの季節よりも部屋にすることが多いからでしょうか。今年もいまがちょうどその時期で、帰ってくると「こま板出して！」と誰からともなくこままわしを始めています。

まわっている時間の長さを競う「ながいき」や、お互いのこまをぶつけ合って最後まで残った方が勝ちの「けんかこま」、「どじょうすくい」「空中手のせ」などのこまの技を練習している子もいます。

牛乳パックに好きな模様を書いて、まわっているこまにのせ、ちがう模様になるのを楽しんでいる子もいます。

そんなこまブームの流れもあり、帰りの会の時にやるゲームでも「こまのぶちあてをやりたい」という声があがりました。

「ぶちあて」は、2チームに分かれ制限時間内でできるだけこまをまわします。(こまは2チーム用に赤、青など色分けしておく)自分のチームのこまがこま板から落ちたり、とまってしまったらまた拾ってすぐにまわします。

そして「おわり - !」という合図の時に、まわっているこまが多い方が勝ちです。これだと、上手な子は相手のこまをめがけてまわし、板から出すのも作戦のうちです。

また、まだ慣れていない子はうまくまわせなくても時間内であれば何度でもまわせるので、こまをまわす練習にもなります。気づいたら1年生がまわしたこまが1個だけ残っていた…なんてこともあるのです。

この冬もたくさんあそんで、こまの面白さが広がっていけばいいなと思います。(つる)

やっぱり父母会は必要だよ。

寒気はまだまだ退きませんが、いかがお過ごしでしょうか。

子どもたちが放課後ルーム（学童保育）に通っているお陰で我が家も夫婦共々安心して働くことが出来ます。

でも放課後ルームというのは、託児所ではありません。子どもたちの放課後や休日の生活の場所なのです。

ルームには、気の合う友達も中には気が合わない友達も居るでしょう。

その中で子どもたちは、宿題をやったり、おやつを食べたり、遊んだりして親が帰って来るまでの放課後を過ごしています。

貴方は、放課後ルームと一緒に生活している他のお子さんや親を知っていますか？

お世話をして下さっている指導員の先生を知っていますか？

父母会って煩わしいとか面倒だとか思っていないですか。

何も行事をするだけが父母会じゃ無いのです。

貴方の子供達のためにもルームを通して知り合えた他の親たちとより良い環境を作ってあげませんか。

まずは貴方から始めましょう。面度でない父母会作りをお手伝いします。本当は、毎日仕事に追われている私たちこそ、私たちの放課後ルームが必要かもしれませんね。

私には、父母会を通して何の利害関係のなく気軽にお酒を飲める仲間がいる事を幸せだと思っています。

船橋市学童保育連絡協議会 会長 小川貴敏（葛飾）

「船橋市学童保育連絡協議会」（略称・市連協）とは・・・

船橋市内の放課後ルームに子どもを通わせている父母、働いている指導員、そしてサポーターの市民がつながりあい、連絡をとりあいながら、保育の充実・発展のために活動している団体です。毎月定例会では父母会活動の交流、秋には「がくどうまつり」みんなの要望をまとめて、市の担当課（児童育成課）との話し合い、ほかにも市内の子育て団体と協力してさまざまな活動をしています。

加盟募集中です。父母会単位でも個人でも参加できます。

3月父母会定例会のお知らせ

3月24日（金）19：45～女性センター（予定）